



はちもり

校訓：海のように 波のように 岩のように

令和7年2月14日(金)

八峰町立八森小学校

目指す子ども像

- ①よさを伸ばし合う子ども
- ②つながりを大切にする子ども
- ③自らとふるさとを拓く子ども



第38号 文責：安部 晃幸



自他の命を守る

避難訓練 2月13日(木)

2月13日(木)、休み時間に地震が発生したことを想定した避難訓練を実施しました。

今回の訓練の主なねらいは次のとおりです。

- ①自分で判断して物が「倒れない」「落ちてこない」場所に避難できる
- ②校内8カ所ある二次避難場所「あつまれ」に移動できる
- ③先生が来るまで、集まった中の最上級生がリードして静かに並べている

二次避難場所「あつまれ」を利用した訓練は今回が初めてでしたが、子どもたちは、これまでの避難訓練で学んできたことを意識して、整然と避難をすることができました。

今後もこのようなイレギュラーな避難訓練を行い、自他の命を守るために主体的に行動する態度を育成していきたいと思います。



おそうじ名人にメダルが贈呈されました！

今年度2回目の「おそうじ名人」が決まりました。2月7日(金)の清掃開始前に、縦割り清掃班の班長からメダルを贈呈されました。

今回選ばれた児童に限らず、本校の児童は掃除の時間になるとすぐに掃除場所に向かい、自分の分担の仕事に素早く取りかかっています。そのおかげでとてもきれいな環境の中で生活ができています。きれいな教室、きれいな校舎をいつまでも保てるように、これからも掃除への真面目な取組を期待しています。



1年 咲良さん・さちさん

〈第1回おそうじ名人(7月)〉

- | | |
|----------------|----------------|
| 1班 石井隼生さん(3年) | 6班 山本愛実さん(5年) |
| 2班 井川新菜さん(2年) | 7班 秋田谷葵成さん(1年) |
| 3班 小林咲桜さん(1年) | 8班 山口あこさん(1年) |
| 4班 渡部 尊さん(1年) | 9班 菊地志雄さん(3年) |
| 5班 工藤ゆづはさん(1年) | 10班 日沼莉心さん(1年) |

〈第2回おそうじ名人〉

- | | |
|---------------|----------------|
| 1班 小林咲良さん(1年) | 6班 工藤修太さん(4年) |
| 2班 金田琳人さん(4年) | 7班 吉村優凜さん(2年) |
| 3班 石井碧人さん(2年) | 8班 原田苺衣さん(5年) |
| 4班 井川さちさん(1年) | 9班 佐藤 心さん(5年) |
| 5班 小林心陽さん(4年) | 10班 須藤碧恩さん(5年) |

※ 第1回おそうじ名人を紹介してませんでしたので、遅くなりましたが第2回とともに紹介します。

食育講話 ~どんな思いで食材はつくられているのだろう~

2月7日(金)、栄養教諭の佐藤紀美子先生から、食育に関わるご講話をいただきました。

八峰町産しいたけの生産現場の動画を視聴した後、佐藤先生が生産者さんの思いや、これから給食を食べるときにがんばってほしいこと等をお話ししました。

しいたけが苦手、嫌いな児童は多いですが、今回の機会を通して、一口でも挑戦する気持ちになってほしいと思います。



た。たて、声に行生会のい6
読、色抑いまに場で昼2大6
み、工を揚まし読み読、休月作年生
聞、夫を付したみ聞みみ、10戦「
かせを凝たり聞かせ5の(月)第四
せでししりせを年5の)弾。手
しししりしを年5の)弾。手



今週の一枚

授業の様子から



【1年】生活

風あげをしました。前は風が弱かったですが、今回は強く吹く風に乗ってとてもよくあがりました。寒さより、楽しさが勝っていたようでした。

【2年】体育

ボール蹴りゲームの練習です。その場で向かい合ってパスを出す練習の後は、走りながらパスを出す練習をしていました。



【3年】算数

86×30 や 3×46 の計算の仕方について、位の数字やけた数に目を向け、計算のきまりを用いて簡単に計算する方法を考えていました。

【4年】算数

商の一の位が0のときや、わる数が2けたのときの筆算の仕方を考えています。これまでの学習を振り返り、問題に取り組んでいました。



【5年】家庭

生活場面や活動に合わせた衣服の着方を考えています。山登りにはどのような衣服がよいのか、いろいろな状況を想定して発表していました。

【6年】外国語

自分の将来の夢を英語で語りながら、友達の質問に答えています。話す方も聞く方も笑顔で、温かい関係が築けていることを感じます。

つぎ

未来の地図帳

10〜20年後の人口減少が日本の各地域にどのような影響を及ぼすのかを明らかにした、『未来の地図帳 人口減少日本』で各地に起きることという著書が、現在76万部以上の売り上げを記録しているといえます。

私は読んでいませんが、ネットでその内容の一部が紹介されていました。それを見て愕然としました。2035年、全国でも東北地方の人口激減が顕著になります。最も深刻なのは秋田県で、2015年には約102万人だった人口が約74万人に、さらに10年後の2045年には約60万人に減少するといえます。

市町村をみても、2035年に人口が3割以上減る市町村は18に上り、住民の過半数が65歳以上という「限界自治体」も能代市を含め12となるそうです。

当然のことながら、これは全国的な傾向であり、現在、約1億2000万人の日本の総人口は、40年後には9000万人を下回り、100年も経たないうちに5000万人ほどに減るといふ試算も出されています。

また、時系列に人口減少によって引き起こされる様々な社会現象も紹介されています。例えば、

- ・ 2033年 空き家が増えて3戸に1戸は人が住まなくなる

- ・ 2042年 高齢者数がピークを迎え、無年金・低年金の貧しく身寄りのない高齢者が街にあふれかえる

など、現在も話題に上る社会問題が少しずつ国全体を蝕んでいき、近い将来、取り返しの付かない深刻な様となって現れてくるおそれがあります。

人口減少は国の存続に関わる大きな問題です。国も少子化対策や高齢化対策等に取り組んではいますが、国全体のシステムを転換するくらいの策を講じないと根本的な改善・解決は見込めない気がします。

テレビで目にする「ポツンと一軒家」は、そう遠くない未来の我が家なのかもしれません。

